

日本語教科書における女性の職業：

教科書分析と日本語教師の意識調査分析

水本光美

日本語教育の現場で広範に使用されている日本語教科書においては、多数の男性が医者など社会的地位の高い知的職業に従事し、女性は、教師以外の大半が主にサービス業や小売業などで社会を支えるという構図が印象づけられている。一方、政府による調査結果によれば、「医療」と「教育」の分野では女性の就業者のほうが多く、その中でも、技術・専門職のほうが事務職より多い。特に、医療分野では、小児科、産婦人科、薬剤師、の3領域においては、男性より女性の割合のほうが大きく、40歳以下の若い年代の医師は、男性より女性の比率が急速に高くなって来ているのである。この教科書の現実に関して、日本語教育に携わる人々へアンケート調査を実施した結果、その大半は、現在の日本社会で女性が従事する職業の多様性を充分認識し、教科書の偏った描写法に違和感を覚え問題意識を持っているということが確認できた。女性が積極的に社会進出し始めてすでに40年以上が経とうとしている現在、日本語教科書は、ジェンダーの扱いを再考してもよい時期に到達しているとみられる。

キーワード：女性の職業、日本語教科書、日本語教師、ジェンダー意識

1. はじめに

1. 1 研究目的

日本語学習者にとって日本語教科書は、言語を習得するだけでなく、日本

文化や日本社会を知る上でも重要な役割を果たす。多くの学習者にとっては教科書の中の世界を通して日本を知ると言っても過言ではない。ことに海外に暮らす学習者は、多くの場合、実際に日本社会における体験がないままに教科書が描く日本社会像から多大な影響を受ける可能性が高い。教科書が伝える日本社会の姿が現状と異なっていれば、学習者は日本社会に対する間違った印象を持つこととなる。現在、現場でよく使用されている日本語教科書においてほぼ共通することは、現在はマジョリティではない日本人の従来のステレオタイプやライフスタイルの描写が多く認められることである。特に、日本女性と日本社会に関わる性別役割分担的描写は、その傾向が顕著である。このような教科書を通して教える日本語教師が、教科書の現実を認識し、日本社会の現在の姿を学習者に正しく伝えることも重要な役割である。

現在の日本社会の現状と比較して、教科書に描かれる日本女性像や日本社会像は具体的にどのような点において現実社会を反映していないのであろうか。また、現場で教える立場として、教師は、そのような日本語教科書の中に描かれる世界をどのように捉えているのだろうか。本研究では、先行研究を踏まえ、まず、日本人女性の職業および職種に焦点を絞って日本語教科書を調査分析する。次に、日本語教師がその描写法をどのように捉えているのかに関して調査したアンケート結果を分析し、それらを日本社会の現状と比較分析する。その結果より、今後の日本語教科書制作の方向性をジェンダーの観点より考察したい。

1. 2 先行研究の概要と本研究の位置づけ

ジェンダーの視点から探った学校教育における教科書研究は、伊東他(1991)、金丸(1998)、松元(2005)などにより様々な視点から進められてきたが、日本語教育の分野での先行研究は、未だ少数である。代表的なものとしては、まず、子供向け教科書において性別役割分業の挿絵研究を行った石田(1998)

および渡部(2001)の2点、次に、初級教科書の挿絵における男女比、職業に於ける性別役割分担の描写比較、ステレオタイプの女性像・男性像、ディスコースにおけるポライトネス性差について報告している渡部(2006)の計3点があげられる。渡部は、5種の日本語初級教科書分析を行い、「どの教科書にも共通して、職業描写における明確な性別役割分業の描写、ステレオタイプの女性像・男性像、ポライトネスの性差という再差別的描写が含まれている」ことを指摘している。また、挿絵についても、「男性比率が女性比率より2倍から7倍と高く、明確に男性中心で不平等なものも認められた」と報告している。それらの先行研究を踏まえ、水本(2012)では、日本語の初中級教科書における日本女性像の分析研究を行ったが、その際、取りあげたのは、家庭内の女性と仕事場の女性のステレオタイプであった。教科書に描かれる日本女性像を現在の社会の状況に照らし合わせた結果、次のようなことが確認された。

- (1) 教科書の中に「結婚後は家庭内に留まり家事・育児に専念する存在」として描かれる専業主婦は、現在の社会では、数値的にも少数派(平成23年調査で約44%¹⁾)となっているにも拘わらず、未だに多数派としての印象を与える存在として教科書によって積極的に描かれ、そのジェンダー的役割もイラストによって強調されている。
- (2) 現代社会では、若い世代の大半(平成22年卒で73.4%²⁾)が総合職志向であり、事務職と同等に技術・専門職にも多数従事している³⁾にも拘わらず、教科書の中では、総合職や専門職の女性は極めて少数であり、外で働く女性は、結婚前の一時的な仕事に従事する若い女性として印象づけられイラストでも強調されている。

本研究では、先行研究(水本2012)では扱わなかった視点、すなわち、日本語教科書に具体的に描かれる「女性の職業」の描写を調査し、それを最新の

政府による調査結果と比較分析する。その上で、ジェンダーの観点より教科書の問題点を提起し、同テーマに関し日本語教師 200 名に行ったアンケート調査の結果も紹介しながら、今後、現実社会を反映した教科書作りのために、どのような点をどのように修正したら良いかを提案する。

2. 研究対象と比較研究データ

本研究においては、日本語教科書の研究結果、日本の現状を報告する政府による調査結果、この 2 点より導き出された日本語教科書の矛盾点を明示し、それに関して現場で教える日本語教師がどのように捉えているかについて報告する。次にそれぞれの研究の概要を説明する。

2. 1 日本語教科書研究

先行研究(水本 2012)と同様に、本研究に於いても、日本国内でよく使用されている初級教科書 9 種、中級教科書 7 種、合計 16 種 18 冊を調査した。選択した教科書は、書店などの売れ行き調査、および現場で長年教える教師からのヒアリングをもとに、国内外で広く使用されているものを選別した。次頁の表 1 は、その教科書リストである。

2. 2 日本語教師に対する意識調査研究

先行研究(水本 2011)では、日本語教科書における「女性文末詞」の使用に関する日本語教師の意識調査とその分析を実施したが、本研究では、調査対象を更に増加したアンケート結果に基づき、次の点について把握することを目的とした。

- (1) 日本語教科書に描写される日本女性の職業に関しどう考えるか。
- (2) ジェンダーに配慮した日本語の教科書作成が必要か。

表 1 調査対象日本語教科書一覧

		書名	出版年	出版社
日 本 語 教 科 書	初 級	Situational Functional Japanese: Model Conversation	1994	凡人社
		Total Japanese: Conversation 2	1994	早稲田大学
		みんなの日本語 初級 I (本冊)	1998	スリーエーネットワーク
		みんなの日本語 初級 II (本冊)	1998	スリーエーネットワーク
		げんき II	1999	The Japan Times
		文化初級 II	2000 改訂	凡人社
		まんがで学ぶ日本語 (生活編)	2003	アスク
		エリンが挑戦! にほんごできます	2007	国際交流基金
		日本語会話トレーニング	2008	アスク
	Japanese for Busy People III (3 rd edition)	2007	講談社インターナショナル	
	中 級	中級の日本語	1994	The Japan Times
		ニューアプローチ 中級日本語 (基礎編)	2002	日本語研究社
		ニューアプローチ 中上級日本語 (完成編)	2002	日本語研究社
		J Bridge (新装版)	2009	凡人社
		なめらか日本語会話	2005 改訂	アルク
		まんがで学ぶ日本語会話術	2006	アルク
		会話の日本語	2007 改訂	The Japan Times
		マンガで学ぶ日本語表現と日本文化 (多辺田家が行く!!)	2009	アルク

2. 2. 1 調査方法

- (1) 調査時期：2010年5月から7月
- (2) 調査対象：日本語教師および日本語学・言語学など日本語教育関係者
日本国内在住(101名)、韓国在住(17名)、欧州在住(82名)の合計200名

<内訳>

- i. 日本国内在住者：日本人女性(83名) 外国人女性(6名)

日本人男性（12名）

11.韓国在住者：日本人女性(11名) 外国人女性（1名）

日本人男性（3名） 外国人男性（2名）

111.欧州在住者：日本人女性(70名) 外国人女性（4名）

日本人男性（8名）

男女比は約7対1であるが、これは、日本語教師が、圧倒的に女性が多いという現状を反映しているためである。回答者の年代は、20代12名、30代57名、40代56名、50代23名、60代38名、60代以上14名であった。職業は、約95%が日本語教師であり、そのうち9名が日本語教育を専門とする大学院生でもある。その他は、言語学専門家および言語学を専門とする大学院生である。

回答協力者は、主に次の日本語教育の学会・研究会の会員および関係者である。

- 日本語ジェンダー学会
- 日本語プロフィシエンシー研究会
- 日本語 OPI 研究会
- 九州 OPI 研究会
- 韓国 OPI 研究会
- ヨーロッパ日本語教師会
- 英国日本語教育学会
- フランス日本語教師会

アンケート対象を国外にも拡大したのは、当初、国内と国外では、教える側の認識や考え方にも相違点が見いだせるのではと予想したから

である。しかし、回答結果は、双方に特徴的な相違点は見いだせず、概ね、類似したものであったため、本研究では、国内外を区別せずに、対象者全員 200 名を調査対象とした。また、男女比が極端に女性に偏っているが、前述のように、これも日本語教育界に男性教師が少ないという現状から、これ以上、男性回答を増強出来る可能性もないため、男女の特徴的回答は期待できないことから、本研究では男女混合 200 名の回答結果を研究対象とした。

- (3) 調査方法：インターネット上の無料アンケートソフト「アンケートツール」⁴⁾を用い、アンケート質問⁵⁾をネット公開。上述の日本語教育関係の諸学会・諸研究会のメーリングリストで回答を呼びかけた。各設問は選択方式であるが、それを選んだ理由や例については、コメント欄を設けた。

2. 2. 2 調査結果の集計方法

上述のアンケートソフト「アンケートツール」は、集計結果を自動的にグラフに表し、生データのダウンロードや絞り込み集計により属性別回答も得ることが可能である。また、アンケート開始時に「二重回答の防止」というオプションを設定することが可能であったが、「する」にすると、同じ IP アドレスからの二回以上の回答をカウントしない。このため、会社や学校などで同じコンピュータを共有している場合や、同じ建物内での使用を想定している場合は、しばしば IP アドレスも同じになるため、「しない」を選択するようにという指示があった。従って、当アンケートでは「二重回答の防止」を設定しなかった。

ところが、アンケート終了後、生データを調べてみたところ、日本国内の回答の中に 12 名が全く同じ回答をしていることが発覚した。これらの回答は連続して入力されていたため、使用コンピュータの不都合による可能性が考

えられた。このアンケートソフトのシステム上、これらの重複回答を削除することが出来ないため、残念ながら正しい集計結果の公表は、そのアンケート・サイト上では出来なかった。よって、生データよりそれらの重複データを手作業で削除し、それをもとに集計した結果を作図し本研究では用いている。

2. 3 政府による日本の現状に関する国民的調査結果の研究

日本政府は、毎年、日本の現状を把握するために国民的大規模調査を実施し、その結果を公表している。本研究では、研究テーマに関連する次の6種の調査結果よりデータや分析図を引用したり、あるいは、情報の素データに基づき作図したりしている。

- a. 『平成 22 年国勢調査』(総務省統計局)より「職業等基本集計結果」、H24 年 11 月 16 日公表.
- b. 『平成 22 年医師・歯科医師・薬剤師調査の概況』(厚生労働省)、H23 年 12 月 6 日公表.
- c. 『平成 23 年賃金構造基本統計調査(全国)の概況』(厚生労働省)、H24 年 2 月 22 日公表).
- d. 『平成 23 年労働力調査年報』(総務省統計局), H24 年 11 月 16 日公表.
- e. 『平成 23 年男女共同参画白書』(内閣府男女共同参画局)、H23 年 6 月 27 日公表.
- f. 『平成 24 年男女共同参画白書』(内閣府男女共同参画局)、H24 年 2 月 22 日公表.

3. 調査結果と考察

3. 1 日本語教科書における女性の職業

日本語教科書の中の登場人物の職業は、学習者の生活環境(家庭とその周

辺、および職場)の範囲内で通常接触する可能性の高いと思われるものが挙げられている。そこには、教科書の著者が考える世間で一般的なステレオタイプが採用されるわけであるが、実際に統計をとり男女別の職業を比較してみると、明らかに、教科書における男女の社会での役割分担の縮図が見て取れる。次の図1と図2は、教科書に現れる女性の職業と男性の職業である。ここには、教科書のメイン家族の父親が勤める「職場」は、業種・職種が明らかでないことが多いため含めていない。

図1に見られる女性の職業では、デパート店員が最も多く(14名)、受付(12名)、小売店員(12名)、ウェイトレス/フロアー係(8名)、教師(7名)、デパート案内係(6名)と続く。これらは、職業分類としては、教師以外はすべてサービス業と小売業であり、全体の約6割を占めている。

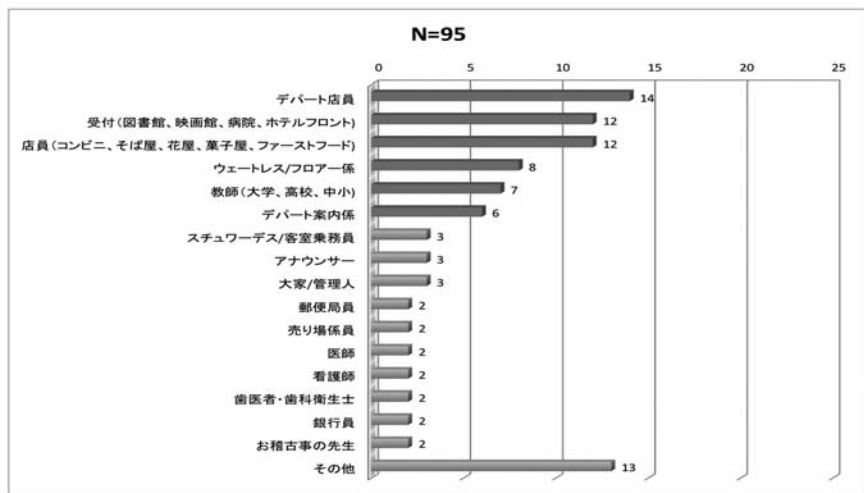


図1 教科書の女性の職業

一方、図2に見られる男性の職業の上位6種は、小売り店員(24名)、教師(21名)、医師(10名)、警官(9名)、駅員(6名)、郵便局員(6名)である。男性の職業分類としては、1位の小売業以外は、比較的社会的地位の高い教師、医者、公務員(警官)が上位を占めており、これらは男性全体の3割近くへのぼる。すなわち、日本語教科書において抱く日本人の職業感としては、多数の男性が社会的地位の高い知的職業に従事し、女性は、教師以外の大半が、主にサービス業や小売り業などで社会を支えるという構図が印象づけられてはいないだろうか。

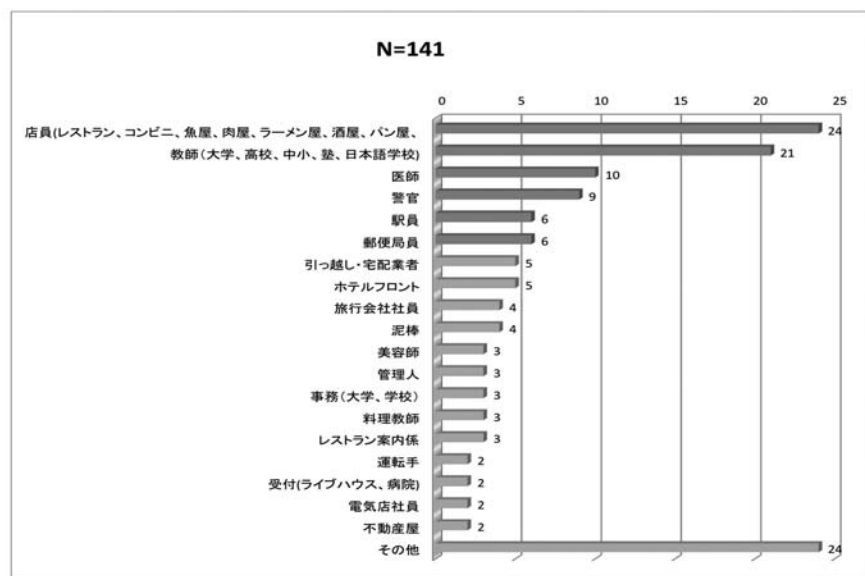


図2 教科書の男性の職業

これ以外にも、先行研究(水本2012)によって明らかにされたように、教科書に頻繁に現れる職場での女性たちは、20代の若い事務系一般職が大半

を占め、その仕事は、従来通りのコピー、お茶くみ、電話、受付など、職場のキャリア（総合職）、即ち男性を支える役割として描かれている。それを強調するように、教科書には女性の補助的な仕事の挿絵が多数提示されており、このように偏った描写による教科書の中の日本社会は、明らかに 30 年から 40 年程前のステレオタイプであると言わざるを得ないであろう。

3. 2 日本語教師からみた教科書の中の女性の職業

日本国内外（日本国内に加え、韓国、欧州）で日本語を教える教師 200 名を対象に実施したアンケート調査で、次のような質問をした。

<質問>日本語教科書の中に描写されている社会における女性の役割についてどう思いますか。

*日本語の教科書の中では、女性の職業はごく限られています。→（例）会社ではOL、デパートの店員、受付、秘書、ニュースキャスター、お天気お姉さん、日本語教師、など。

その結果をまとめたものが次の図 3 である。「今は様々な職業に従事しているのでそれを反映すべき」と答えたのが 72%で最も多く、「現実なので今のままでよい」という考えは 12%のみであった。16%が選択した「その他」には、「概ね教科書は事実を反映している（全体の 4%）」、「それほど教科書の内容は固定化していない(全体の 1.5%)」、「教科書の問題ではなく、教師が臨機応変に授業の中で紹介すべきこと(全体の 1.5%)」、「外国語教育の教科書にはステレオタイプは必要(全体の 1%)」など、様々なコメントや理由が記述されていた。この「その他」を選択して理由等を述べた人の中には、実は、「教科書の描写は現実であるので今のままでよい」という回答と意味的に同様なものが全体の 5.5%あり、それを加算すると、「教科書の描写は現在の日本社会の

現実である」と考える人たちは合計で 17.5%になる。これに分類される回答の絞り込みデータを観察したが、年代的にも居住地域的にも顕著な特徴は観られなかった。この結果からも、日本語教育に携わる人々の大半は、現在の日本社会での女性が従事する職業の多様性を充分認識し、教科書の偏った描写法に問題点を見いだしていることが分かる。

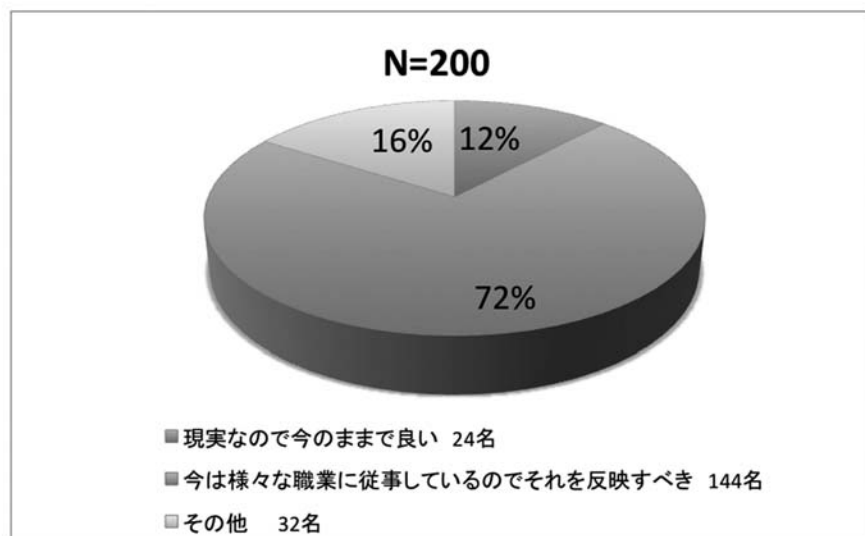


図3 教科書の女性の役割に関するアンケート結果

3. 3 日本の現状を伝えるデータにみる女性の職業

平成 22 年国勢調査(2010 年 11 月 16 日公表)によれば、平成 22 年 10 月 1 日時点での 15 歳以上の労働人口は、男性 34,089,629 人、女性 25,521,682 人であり、その比率は男性 57.19%、女性 42.81%である。国民の従事する職業は、20 種の職業分野（農業、漁業、製造業、学術研究・専門・技術、教育、医療など）と 12 種の業種（管理、専門・技術、事務、販売、サービスなど）に分

類されている。そこで、教科書の男女の職業を、国勢調査の「職業など基本集計」による職業分類に倣って分類して次に示す図4「教科書の男女職業分類比較」を作図し、国勢調査の結果と比較してみた。

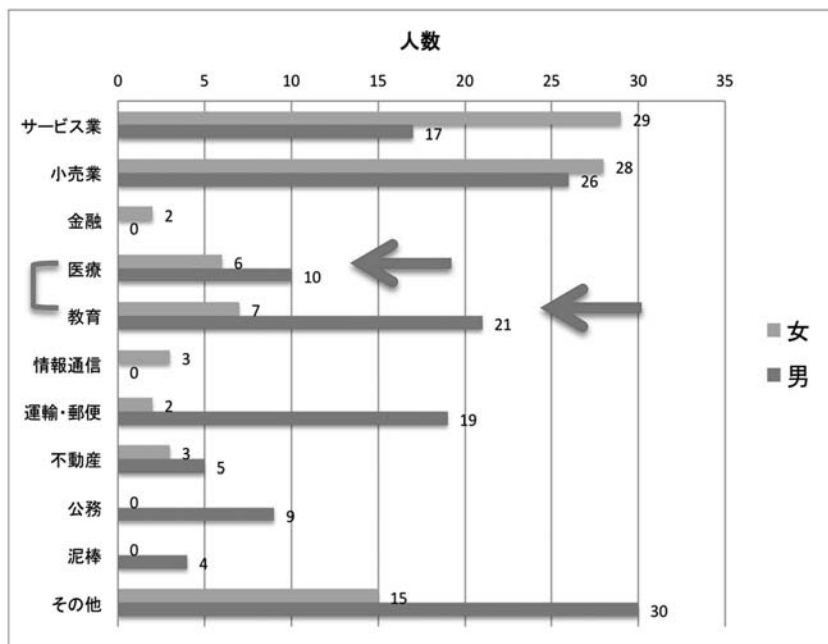


図4 教科書の男女職業分類比較

この図で注視したいのは、女性が男性より少ない「医療」と「教育」の分野である。なぜなら、国勢調査で示されている現状とは大きく異なるからである。その統計結果(「平成22年 職業等基本集計」)と、この図を比較してみたところ、教科書では、男性が女性の2.5倍から4倍以上であるが、国勢調査では、この2分野は女性の就業者数の方が極めて多いのである。同国勢調査結果より、女性の就業者数の方が多い2種の職業(医療・福祉と教育・学習

支援)と、その職種(技術・専門職と事務職)を取り出し次の図5⁶⁾に表した。どちらの職業も女性の方が多く、また、技術・専門職のほうが事務職より多い。殊に医療・福祉分野で働く人の75.42%が女性であり、57.93%が女性の技術・専門職従事者である。女性看護師が圧倒的に多いということから、この数値は納得出来るが、教科書には男性医師10名に対して女性医師は2名、その他、女性の看護師2名、歯科医か歯科衛生士が2名のみ登場している。

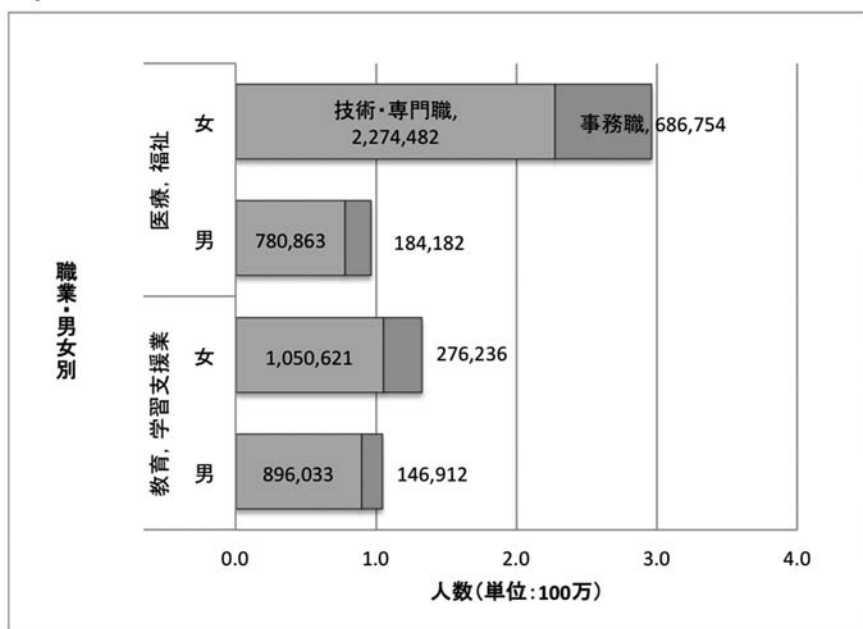


図5 医療・福祉・教育分野における男女の就業者数

厚生労働省による「平成22年 医師・歯科医師・薬剤師調査の概況」(2011年12月6日公表)によると、医師は、男81.1% 女18.9%であることから、確かに、教科書に登場する医師の男女比に関しては、数値的には妥当であると

考えられよう。しかし、医師だけでなく、看護師や薬剤師なども含めて医療分野全体の技術・専門職政職に従事する全体の半数以上が女性であるという現状から観て、この教科書上に登場する医療分野の女性たちは、数値的にも現実が反映されているとは言い難い。

次に、同調査には、医師や薬剤師として働く女性に関して次のような興味深いデータがある。

<表 4 「性・診療科名（主たる）別にみた医療施設に従事する医師数」>

内科：男 23.2% 女 17.2%

小児科：男 4.7% 女 9.9%

産婦人科：男 3.6% 女 6.7%

<表 9 「施設・業務の種別にみた歯科医師数」, H22 年 12 月 31 日時点.>

歯科医師：男 78.9% 女 21.1%

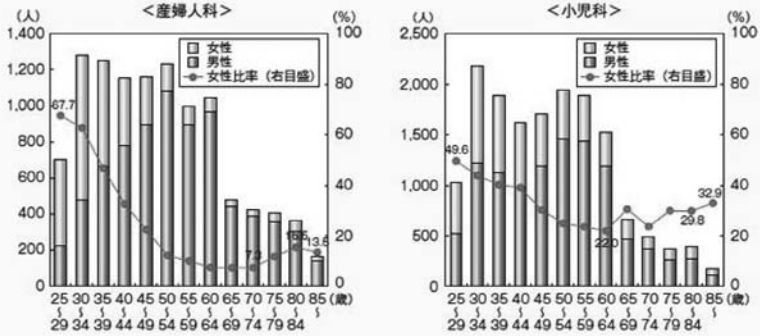
<表 14 「施設・業務の種別にみた薬剤師数」, H22 年 12 月 31 日時点.>

薬剤師：男 39.1% 女 60.9%

上の太字で示した小児科、産婦人科、薬剤師、の3領域においては、男性より女性の割合のほうが大きい。これらの分野では、女性のほうが数的にも多く、殊に、次の図 6⁷⁾「急速に増加する産婦人科と小児科の女性医師」が示すように、35~39 歳を堺として、それより若い年代の医師は、男性より女性の比率が急速に高くなって来ているのである。

さらに、上記の表 9 のデータでは、現在は、女性が男性の約 4 分の 1 である歯科医師も、図 7 「年齢階級別にみた歯科医師の性別構成割合」⁸⁾に表されるように、年代が若いほど女性の割合が急速に高くなっており、平成 20 年末時点では、29 歳以下では女性が 40.8%に急増している。この動向が今後も進んでゆけば、近い将来、日本の歯科医師数も女性のほうが多くなることが推測されるであろう。

第1-7-7図 年齢階級別医師数の男女比（産婦人科，小児科）



(備考) 1. 厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」(平成22年)より作成。
2. 産婦人科の医師とは、主たる診療科が産婦人科と産科の医師である。

図6⁷⁾ 急速に増加する産婦人科と小児科の女性医師

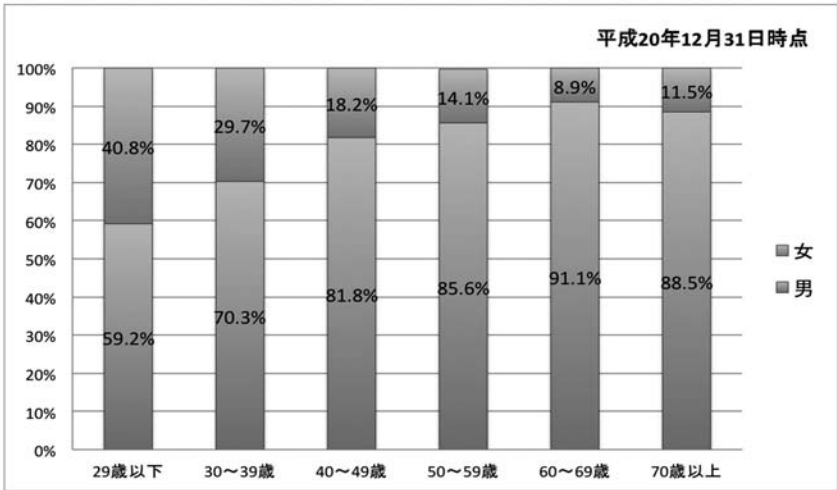


図7 年齢階級別に見た歯科医師の性別構成割合

以上の事実を踏まえれば、今後の教科書に、従来のように男性医師が極端にクローズアップされたような描写は妥当ではないということが言えよう。

また、政府統計には、日頃、日常生活でそれほど接触することがない大学病院や研究所などにおける医療研究者なども含まれているため、教科書に描かれる日常生活環境では、事情が異なってくるのではなかろうか。上述の政府による調査からも、日常生活に登場する病院科目（内科、歯科、小児科、産婦人科）における男女比からみても、女性のほうが多い科目（小児科、産婦人科）や、今後、増加すると推測される科目（歯科）など、また圧倒的に女性が多い薬剤師（女 60.9%）、などは、女性が主に活躍する看護師に加えて、教科書に、今後は積極的に登場させるのが妥当であると考えられる。

4. まとめと今後の課題

以上の教科書、アンケート調査、政府統計調査による結果より見えてきたことは、次の3点である。

- (1) 日本語教科書においては、主に社会的地位の高い知的職業に従事する多数の男性に対し、主にサービス業や小売業などの分野で働く女性という構図が印象づけられている。
- (2) 日本語教育に携わる人々の大半は、現在の日本社会で女性が従事する職業の多様性を充分認識し、教科書の偏った描写法に違和感を覚え問題意識を持っている。
- (3) 政府による調査では、日本社会における女性の職業の現状として、次の点が確認されている。
 - i. 医療・福祉と教育・学習支援の分野では、女性就業者数の方が多く、どちらも事務職従事者より技術・専門職従事者のほうが多い。
 - ii. 看護師や薬剤師なども含めて医療分野全体の技術・専門職に従事する全体の半数以上が女性である。

- iii. 小児科、産婦人科、薬剤師、の3領域においては、男性より女性の割合のほうが大きく、歯科もまもなく女性の割合が大きくなることが予測される。

本研究の結果より、今後、新たに製作される教科書における日本女性の職業として何を取りあげれば現状と近い将来を正しく見据えた日本社会描写が出来るか、ということが明らかであろう。すなわち、従来のように、「男性＝知的技術的専門職＝社会的地位の高い職業」、「女性＝サービス業、小売業、事務職」というジェンダーイデオロギー的構図から脱し、今後の教科書には、「技術的専門職」に従事する女性達、具体的には、教育に従事する女性達に加え、薬剤師、看護師、小児科、産婦人科、歯科などの医師も積極的に登場させることが、現在の日本社会を反映したあり方であろう。

日本語教師へのアンケートの回答結果では、その大半が、教科書の偏った描写法に問題点を見いだしているが、なかには、少数ながら、社会の変化に伴い、日本女性の社会への進出も以前より認めつつも、「あと数世代交代しなければ、まだ教科書の反映の範囲を超えられないだろう」という悲観的な意見や、「外国語の教科書では、ある程度、ステレオタイプを見せるほうが教えやすい」という便宜上の理由で旧来のステレオタイプを支持する意見、また、「ジェンダー的とらえ方はある意味、弱者がより弱者らしくなっている気がするため、ジェンダーの問題はあまり好きではない」という消極的態度もみられた。

確かに、女性の日本社会への進出が推進され、実際に急速に進んでいると言っても、いまだ、正社員の女性全体の平均給与は男性の73.26%に止まっている(平成24年厚生労働省調べ⁹⁾)という現実、また、女性政治家数(衆議院・参議院平均で約15%：2011年IPU“Women in Parliaments”)が世界でもいまだ低いところにある事実(122位：2011年IPU“Women in Parliaments”)や、女

性管理者数が世界レベルからは遙かに遠い現状（管理職 11.92%¹⁰）；平成 23 年平均、総務省調べ）を顧みると、日本語教科書に描写される日本女性の古いタイプのステレオタイプが、未だ、人々の意識のなかに深く根付いて残存していることが推察できる。しかし、我々日本の文化を世界に伝える立場の教師が、新しい社会の動向に対して消極的立場をとり、教科書に描写され続けてきた日本女性の旧来のステレオタイプを、現在の日本女性像として、今なお伝え続ける意味があるだろうか。変わりゆく日本社会の若い世代の変化を積極的態度で世界に発信してゆかなくとも良いのだろうか。教える立場の者は、社会変化と実情に常に敏感であり、日本社会の生の情報を伝える義務があるのではなかろうか。

また、「教師が授業の中で紹介していくべき。教科書の問題ではない」や「教科書はある程度、現実を反映している。臨機応変に社会の変化に応じて教師が柔軟性を持って教えれば良い」とする意見もあった。この部類に属する教師であれば、おそらく、教科書の内容いかに拘わらず、教科書の内容に問題点を見だし、現場の教育で随時、時代の変化に即した情報を発信していることが期待される。また、「私が使用している教科書には、女性の医師、教師、課長もでてくるので、女性の職業が限られていると感じた事はない」と、比較的、社会的地位の高い女性を登場させている教科書だけを扱っている人は、他の多くの日本語教科書の傾向を認識することのない比較的幸運な教師であろう。しかし、そのような教科書においても、メイン家族における妻は専業主婦であり、フルタイムで働く主婦は積極的には描かれていない。このような現在の日本の妻の就業状況（平成 22 年政府調査¹¹）で約 66%が共働き世帯）が正しく反映されていないという点は認識しておく必要があるのではないだろうか。

ただ、このアンケートの最後にした質問、「ジェンダーに配慮した日本語の教科書作成が必要だと思いますか」に対して、「必要ではない」と答えたのが

200名中1名のみであり「必要だ」と64.5%が答えたことからしても、多数の日本語教師が、現状の日本語教科書の多くにジェンダーの観点より疑問を感じることもあり、教科書に存在するジェンダーの問題点に関して考慮した教科書を求めていることは明らかである。残りの35%も、「現状の教科書を使用し教師が現実の変化を伝えれば良い」と、教科書のジェンダーの問題点について認識した上で、独自の方法で個別対処しようと前向きな姿勢を示している。

いずれにせよ、日本語教師へのアンケート調査結果より、現場で教える教師が、教科書に描かれてきた女性像の改変の必要性を認識し、より日本社会の現状を反映した教科書作成に対して積極的態度を示しているのは心強い。

男女雇用機会均等法が制定されて最早40年近くになり、女性は男性と同等に急速に社会に参画しようと前進している。日本女性の社会に於ける役割も、40年前からは多大な変革を見せており、従来、男性だけの職業とされてきたものにも女性の積極的進出が認められる。日本語教科書は、ジェンダーの扱いを再考してもよい時期に到達しているとみられる。教科書執筆者がこの時の流れを諦観し、今後の教科書製作や改編時に実情を反映させる努力を惜しまないことを大いに期待したい。

本稿では、日本女性の職業に関して、教科書、政府による統計、日本語教師の意識調査を比較分析したが、今後はさらに、教科書の中で日本文化を伝える重要な役割を担う「日本の家族像」に関しても同様な比較分析を行い、ジェンダーの視点より熟慮した新しい日本語教科書のあり方を提案してゆきたい。

謝辞

本稿執筆にあたり、アンケート調査にご協力いただいた次記学会・研究会の当時の役員および会員の皆様に、深謝する。

- 日本語ジェンダー学会（佐々木瑞枝会長）
- 日本語プロフィシエンシー研究会（鎌田修会長、嶋田和子副会長）
- 日本語 OPI 研究会（西川寛之会長、神山光子会計監査）
- 九州 OPI 研究会（権藤早千葉副会長）
- 韓国 OPI 研究会（早矢仕智子会長）
- ヨーロッパ日本語教師会（穴井宰子会長）
- 英国日本語教育学会（岩崎典子会長）
- フランス日本語教師会（東伴子会長、内田陽子編集委員）

注

- 1) 『平成 23 年度版 男女共同参画白書』の「第 1-2-18 図 共働き世帯数の推移」、（内閣府, 2011 年 6 月 21 日公表）のデータによる。
- 2) 参照：「総合職か一般職か「総合職」を恐れないで(4)」,（東洋経済社, 2009 年 12 月 26 日）,
http://www.toyokezai.net/life/rec_online/success/detail/AC/bd8b2ad9dce633ca5c14fcb25ccbe9/page/4/.
- 3) 「高等教育機関 卒業後の状況調査 大学」, 『平成 22 年度学校基本調査』(文部科学省, 2010 年 12 月 22 日公表), 表 81 のデータより算出。この調査時点で、女子の事務系就職者は 36.2%、専門的・技術職業従事者は 35.9%。
- 4) Continental Contents による無料ソフト。閲覧環境を問わず、同じ URL で携帯やモバイル機器からの回答・閲覧が可能である。<http://enq-maker.com/>
- 5) 章末の「アンケート内容」を参照。
- 6) 平成 22 年国勢調査(H22.10.1 現在)の「職業等基本集計」(総務省統計局, 2012 年 11 月 16 日.) の表 4-2 のデータより図を作成。
- 7) 内閣府男女共同参画局 (2012) による『平成 24 年度版 男女共同参画書』より「第 7 章 生涯を通じた女性健康」の「第 1-7-7 図」(p.110)。
- 8) 厚生労働省 (2011) 『平成 22 年 医師・歯科医師・薬剤師調査の概況』(2011

年 12 月 6 日公表) より「3 保健医療関係者の動向」の表 11(p.20)のデータより作図。

- 9) 厚生労働省 (2012) によると、正社員・正職員の平均賃金では、男性 339.6 千円、女性 248.8 千円となっている。
- 10) 総務省統計局(2011)『平成 23 年 労働力調査年報』の「基本集計 I-B-5 表 地位・職業別就業者数」により計算。平成 23 年平均で、管理的職業従事者は、男性 133 万人に対して女性 18 万人。女性は男女全体のわずか 11.92%。
- 11) 参照：内閣府男女共同参画局 (2011)

参考文献

- 石田孝子(1998)「子供向け日本語教材の分析-教科書に含まれる性別役割分業の描写から-」『JALT 日本語教育論集』3,全国語学教育会,pp.29-39.
- 伊東良徳・他 (1991)「教科書の中の男女差別」,明石書店.
- 金丸扶美(1998)「Sexism と日本の英語教科書」『The Language Teacher』,22(5),全国語学教育学会, pp.11-13.
- 厚生労働省 (2011)「表 4 性・診療科名(主たる)別にみた医療施設(病院・診療所)に従事する医師数」,『平成 22 年 医師・歯科医師・薬剤師調査の概況』,(2011 年 12 月 6 日公表).
- 厚生労働省 (2012)「(6)雇用形態別の賃金」『平成 23 年 賃金構造基本統計調査(全国)の概況』, p.11,(2012 年 2 月 22 日公表).
- 総務省統計局 (2010)「職業等基本集計」『平成 22 年国勢調査』,(2012 年 11 月 16 日公表.)
- 総務省統計局(2011)「基本集計 I-B-5 表 地位・職業別就業者数」『平成 23 年労働力調査年報』,2013 年 3 月 1 日閲覧,
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/report/2011/ft/zuhyou/a00500.xls>
- 内閣府男女共同参画局 (2011)「第 1-2-18 図 共働き世帯数の推移」『平成 23 年度版 男女共同参画白書』,(2011 年 6 月 21 日公表) .
- 内閣府男女共同参画局 (2012)「第 7 章 生涯を通じた女性の健康」『平成 24 年度版 男女共同参画白書』(2012 年 2 月 22 日公表).
- 松元敬子(2005)「ジェンダーからみた中学国語教科書-教科書が伝える男女観と未

来像-」『日本語とジェンダー』 Vol.V,日本語ジェンダー学会, pp.61-77.

水本光美 (2011)「日本語教師の意識調査分析-日本語教科書における女性文末
詞使用に関して-」『基盤教育センター紀要』第9号, 北九州市立大学, pp.
55-80.

水本光美 (2012)「日本語教科書における日本女性像：家庭内の女性と仕事場
の女性のステレオタイプ」『基盤教育センター紀要』第12号, 北九州市立
大学, pp. 1-20.

渡部孝子 (2001)「子供向け日本語教材における性別役割分業の描写-ジェンダ
ー・フリーの教材を目指して」,『日本語とジェンダー』創刊号,日本語
ジェンダー学会,pp. 71-84.

渡部孝子 (2006)「日本語教材とジェンダー」, 日本語ジェンダー学会編『日本語
とジェンダー』,pp. 95-108, ひつじ書房.
『日本語学』, pp.12-6, pp.181-192.

Inter-Parliamentary Union (2013) "Women in national Parliaments", 1st February
2013, <http://www.ipu.org/wmn-e/classif.htm>.

アンケート内容（本稿内容に関係のある部分のみ）

***** アンケートについての説明 *****

日本語教科書には、様々なジェンダーが観察されます。

日本語には、「(だ) わ」「わよ」「わね」「かしら」「のよ」などの、従来、女性が使用する
とされている尻上がり調の女性特有の文末形式が存在しています。

これらの女性文末形式は、男性特有の文末形式と対照的に紹介され、ほとんどの日本語教
科書において、ダイアログや練習などに出現しています。

また、教科書の中に描かれている女性像や女性の役割なども、必ずしも日本社会の現状を
反映しているとは言えないものも見受けられます。

このアンケートは、日本語教育関係者の方々がこれらの問題をどのように考えていられ

水 本 光 美

やるかを調査するものです。

回答対象者：日本語教育関係者（日本語教師、日本語/言語学の教師および学生）

回答にかかるおよその時間：5分～10分程度

回答期限：2010年7月10日（土）

*このアンケートに関する一切の責任の所在は調査者本人にあり、調査結果は、2010年10月以降に公開予定です。

ご協力を心より感謝致します。(北九州市立大学：水本光美)

***** アンケート質問 *****

問1 あなたの国籍と性別は？

1. 日本人女性 2. 日本人男性 3. 外国人女性 4. 外国人男性

問2 あなたの年齢は？

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代以上

問3 あなたの現在の居住地は？

1. 東京都区内 2. 神奈川/千葉/埼玉/茨城/群馬/栃木/山梨
3. 中部/近畿/中国 4. 四国/九州/沖縄 5. 東北/北陸 6. 北海道 7. 韓国

問4 現在の居住地以外で過去10年以上住んだことのある地方は？（複数回答可）

1. 東京都区内 2. 神奈川/千葉/埼玉/茨城/群馬/栃木/山梨
3. 中部/近畿/中国 4. 四国/九州/沖縄 5. 東北/北陸 6. 北海道 7. 韓国
8. なし

問5 あなたが家族と話す言語は？

1. 日本語 2. 日本語と外国語 3. 外国語

問6 あなたの職業は？

1. 日本語教育関係（日本語教師） 2. 日本語教育を専門とする学生
3. その他

問7 あなたが今までに使用したことがある教科書は？

1. みんなの日本語 2. 会話の日本語 3. げんき 4. 文化初級・中級
5. Situational Functional Japanese 6. Total Japanese 7. 中級の日本語
8. ニューアプローチ 中級日本語 9. J Bridge 10. なめらか日本語会話
11. 楽しく聞こう 12. まんがで学ぶ日本語会話術 13. 日本語生中継

日本語教科書における女性の職業：教科書分析と日本語教師の意識調査分析

14. 日能試 試験問題（聴解・聴読解） 15. 日留試 試験問題（聴解・聴読解）

16. Japanese for Busy People 17. その他

問8- 問12（本研究に関係ないテーマに関する問であるため、ここでは省略）

問13 日本語教科書の中に描写されている社会における女性の役割についてどう思いますか。

*日本語の教科書の中では、女性の職業はごく限られています。→（例）会社では
OL、デパートの店員、受付、秘書、ニュースキャスター、お天気お姉さん、日本語教師、など。

1. 現実なので今のままで良い
2. 今は様々な職業に従事しているので、それを反映するべき
3. その他

問14 上の質問で「3 その他」を選択した方は、具体的にお書き下さい。

.....コメント欄（字数制限 400 字）.....

問15- 問19（本研究に関係ないテーマに関する問であるため、ここでは省略）

問20 ジェンダーに配慮した日本語の教科書作成が必要だと思いますか

1. はい、必要だ
2. いいえ、必要ではない
3. 現状の教科書を使用し教師が現実の変化を説明すれば良い

以上。